

田 辺 賞

一生に一度の鎌女生活

榊原 真緒（高校77回）

鎌女を卒業してから気が付けば半年が過ぎました。4月の不安は和らぎ、今は学業に励みつつ、仲間と笑い合い助け合える大学生活を送っています。一方で、時に鎌女の同級生や先生方を思い出し、懐かしく思います。

卒業アルバムを眺めていて、鎌女結びのセーラー服を着て、鎌女の仲間と勉強や部活、学校行事に励み楽しむ鎌女生活は、一生に一度のものだったと気づきました。120周年記念の可愛いTシャツを着てカドリールを踊った体育祭や、最初で最後の部活の合宿、思いっきり楽しんだ沖縄の修学旅行は、思い出に残っています。お昼と一緒に食べながら、登下校しながら友人とおしゃべりした時間も、かけがえないものでした。また、授業での先生方のメッセージも、その時のその先生からでしかいただけないものであり、貴重であつたと感じます。先生方のお言葉は、今でも心の支えです。

もう繰り返せない分、大切に感じられる学校生活でした。鎌女での貴重な日々での思い出や学びを心の糧にして、将来の目標に向かって励みたいと思います。

最後に、様々なことを教えてくださり、支えてくださった先生方、共に学校生活を過ごしてくれた同級生みなさん、貴重な学校生活を支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

「田辺新之助教育記念会」より受賞



尚綱会講座

令和6年8月1日(木)

於 鎌倉婦人子供会館

平安時代の女性

紫式部が生きた時代

講師 平田重樹先生

平安時代は貴族文化が花開き、和歌や漢詩、書などの教養が重じられた時代。中でも摂関政治を築いた藤原氏のもとで宮廷では優雅な文化が発展します。そのような時代に活躍したのが中宮彰子に仕えた女房である紫式部。彼女が描いた『源氏物語』では光源氏の貴公子ぶりと恋愛や人間関係など人生を描き上げた長編小説で、世界最古の長編文学ともいわれています。又、紫式部の育った環境や教養の深さから平安時代に生きた女性た

ちがどれほど高度な教養を持っていたのか、紫式部の作品には彼女自身の感情や人生観が強く反映され、それが現代人の心にも響く作品となっていることを強調されておりました。

紫式部がひとりの知的で繊細な女性として身近に感じられるようになりました。また、平安時代の文学が単なる古典ではなくて、時代を超えて人間の本質に迫る力を感じ、物語に込められた想いや背景を知ることによって『源氏物語』をもっともっと深く味わいたいと思いました。

笹子由佳理(高校35回)

社会見学



鎌倉、裏駅から10分程歩いたところに鎌倉文化交流館があります。白梅が満開の1月下旬、開催中の「女学生がみた近代の鎌倉―田辺新之助と鎌倉女学校―」へ参りました。多くの展示物には、田辺先生の卒業証書や履歴書、授業を受けたっていた漢文の試験問題もありました。リゾート地として栄え、文芸活動が活発だった鎌倉と鎌女。関東大震災に見舞われた鎌倉と鎌女。戦争、敗戦と復興の鎌倉と鎌女：鎌倉の歴史に鎌女の歴史を

重ね合わせて見る事ができました。

当時の女学生が遊んでいた「少女出世すごろく」は、上りが嫁入り支度という所に時代を感じましたし、描いた方が日本画の巨匠鏑木清方であるのも驚きでした。鎌倉と鎌女の今昔に思いを馳せ、平和のありがたさを感じた一日でした。

鎌倉歴史文化交流館には鎌倉で発掘された出土品が常時展示されており、広い庭園も見学ができます。是非一度お出かけしてみたいかでしょうか。

石賀 郁恵(高校37回)

